

自分の中の感覚に
素直に従ったが故の
味のあるセンス。



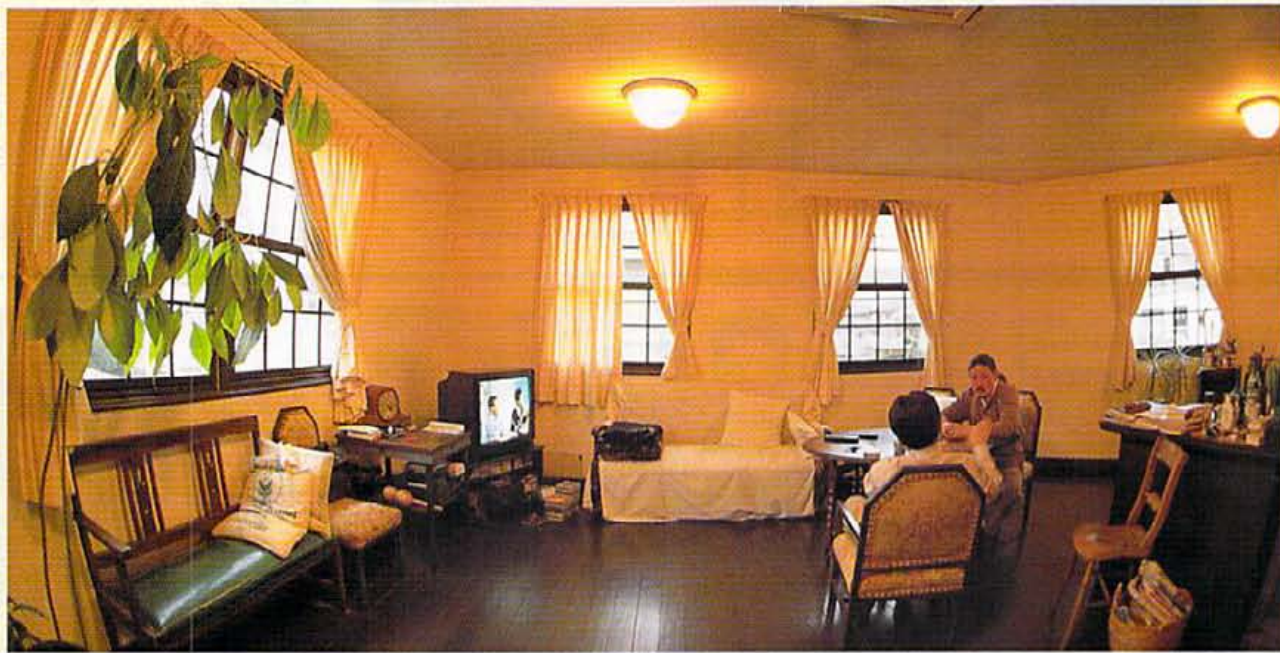
PROFILE
サンデーのマスターこと松村正三さん。普段のスタイルとお願いした今日のファッションはロンドンで見つけたシルク・コットン・リネンのニットにコットンペリーのかのこのTシャツ、ボトムはシーズのドレープ感のある新素材のパンツ。2サイズアップをサスペンダーで。

仕事も遊びも「したいこと」がテーマ。
気が負けない「楽しい毎日」の達人。

蛇口から鏡、タイルホルダー、壁のフックとドレッサーケースも趣意を重
まつてしまっ。アンティークの白銅系が
効いていて本出にかわいい。サイドの
棚は「試しに使ってでもいい」一
味違うスタイリングが一杯。



着心地のいいヨーロピアン・スタイルのファッションを揃えた店サンデー。このシヨップの階段や床板は微妙な質感にこだわって手作業で仕上げてある。何かと手が掛かって「こんな感じが好き」という自分の感覚が素直に従って生きているのがサンデーのマスターこと松村正三さん。年に4回は行く海外へのハイキング、店のオリジナルもののデザインと仕事も楽しみつつ、晴れたらあまご釣りに出掛けてしまう彼はまさに「楽しい毎日」の達人。今回は自身の設計という（居心地がいいことで友人の間でも有名な）彼の自宅にて取材。行きつけの店キッチン・ゴンのピネ・ライスがいかにも旨いかにについて話を聞きながら、彼の味のある日常を紹介していただいた。



カツタンと下から上へ加えるタイプの木の窓に手作りのカーテン。ステンレスは使われていない。古道具時代のヨーロピアンスタイルをベースに、昔の陶製のものを使ったタイルテーブルまで、好みを活かした家のリビング。そこに和・洋・エスニックに渡る好き好きのこだわりを集めた、その奥に居心地の良さは上から「押し通すから結果好き」というマスターらしく設計から少しづつ手を入れてこまめに。



この電鬚は昔と変わらぬ
合いかいかにきき
かしい和製のパリカー
ン。サイドの髪は自分で（しかも自
分）刈り込む。



リビングとつながったキッチンベースがまたかわいい。スパイス棚とシリリのスパイス類は料理好きのなせる業。



猫のプリントが仕込んである直前に、(写真撮影させるタイプ)と「STAY」で撮影は済ませ、しっかりと撮影の準備をバイクB5A(1954年製)と愛用の約半年。その機体はされたヨーロッパの家のドアは面白ものか一杯。



よく聞くのはフラジリアン。開腹で買わないのがマスターのキャラクターとシンドローム好きな曲はオリジナルと別バージョンものを聴き比べたい。



山田立志堂(こし)でマスターはこの系列の名前が好きである。買ったアンティーク・オックス、クック・オックス、これがアウトドア用。こっちは海外用で、なんと自分の中で用途を決めているの面白い。



沖縄の漁師が使っているという水中メガネ。毎年行くという沖縄ではコイツで潜る。



毎朝飲むコーヒーの豆は、常盤の石田本舗で購入するもの。専用のミルでその都度挽いて挽き立てをいれたく。